

2012年3月期第2四半期決算説明会

京成グループ中期経営計画 「E1プラン」の進捗状況について



2011年11月17日
京成電鉄株式会社

目次



「E1プラン」(2011年3月期～2013年3月期)の進捗状況

1. E1プラン数値計画達成目標との比較 …P1
2. 運輸業における震災の影響 …P2
3. 鉄道事業の進捗状況 …P3
4. バス事業の進捗状況 …P10
5. タクシー事業の進捗状況 …P13
6. 流通業の進捗状況 …P14
7. 不動産業の進捗状況 …P15
8. 当社グループの事業環境 …P16

E1プラン数値計画達成目標との比較

◇当初予想(5/10付決算短信発表数値)との比較

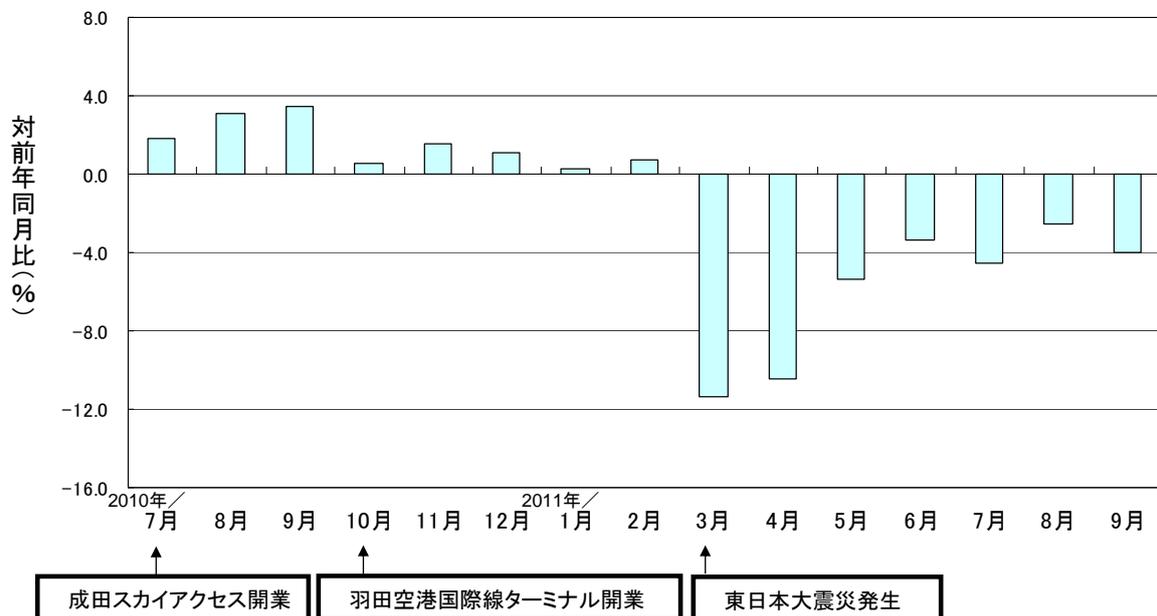
	2012年3月期				E1プラン目標 2013年3月期
	今回予想	当初予想	増減	増減率	
営業収益	2,310億円	2,348億円	△38億円	△1.6%	—
営業利益 (営業利益率)	179億円 (7.7%)	164億円 (7.0%)	15億円 —	9.4% —	230億円以上 (9%以上)
経常利益	196億円	—	—	—	220億円以上
当期純利益	132億円	—	—	—	—
有利子負債残高 (EBITDA倍率)	4,116億円 (10.3倍)	4,139億円 (10.6倍)	△23億円 —	△0.5% —	4,100億円以下 (9倍以下)

※ EBITDA倍率＝有利子負債残高 ÷ (営業利益 + 減価償却費)
 なお、有利子負債残高にはリース債務を含みます。

※ 当初予想の経常利益及び当期純利益については持分法適用会社である株式会社オリエンタルランドの業績予想の算定が困難であった為、開示しておりません。

運輸業における震災の影響

◇運輸業(鉄道事業、バス事業、タクシー事業)収入(対前年同月比)の月別推移 震災直後、大幅減となるも、出控えの解消等により徐々に回復

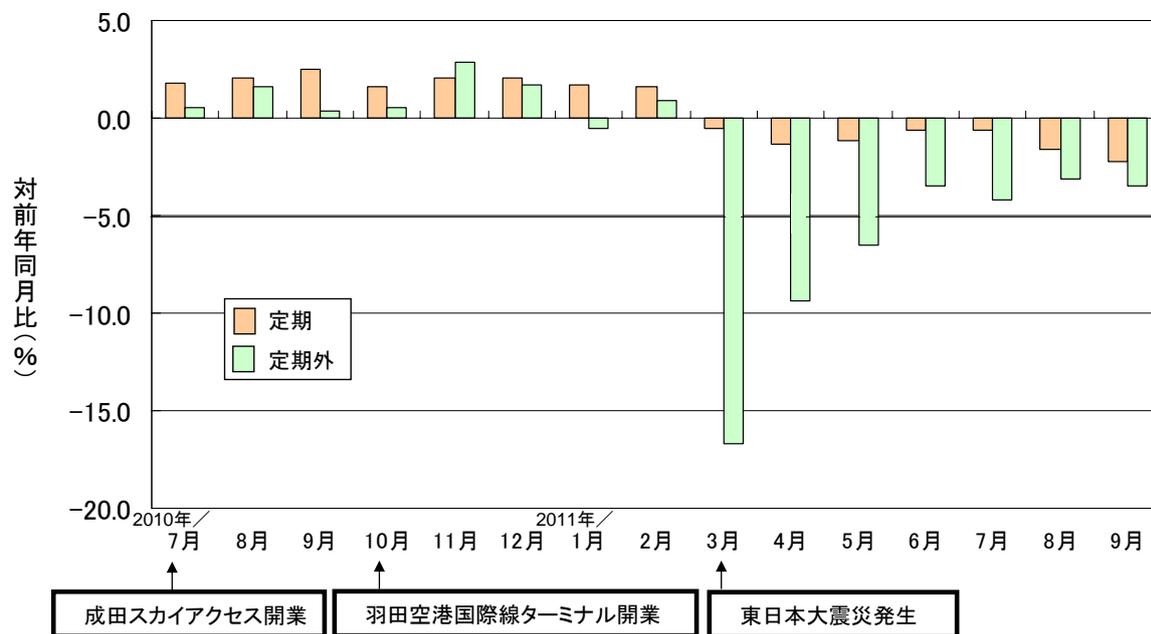


鉄道事業の進捗状況(1)

◇東日本大震災の影響①

当社輸送人員(対前年同月比)の月別推移

震災直後、定期外で大幅減となるも、出控えの解消等により徐々に回復

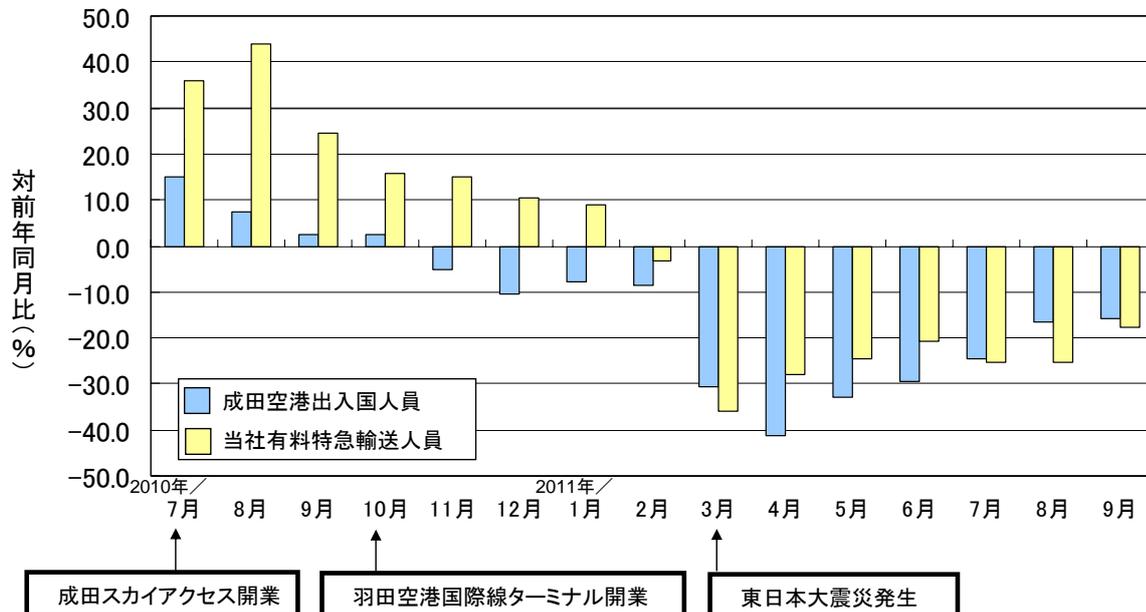


鉄道事業の進捗状況(2)

◇東日本大震災の影響②

成田空港出入国人員と当社有料特急輸送人員(対前年同月比)の月別推移

成田空港出入国人員減に伴い輸送人員が大幅減になるも、その後は回復基調



鉄道事業の進捗状況(3)

◇東日本大震災への対応

電力供給不足と電力使用制限令への対応のため、4月4日より節電臨時ダイヤで運行

日中時間帯を中心に基本ダイヤの85%程度の本数で運行

9月10日より、シティライナーの一部を除き通常ダイヤでの運行を再開

震災後の有料特急運行本数の推移

(単位:本)

	基本ダイヤ	4月4日～	6月27日～	9月10日～
スカイライナー	54	40	44	54
シティライナー	14	0	0	4※
モーニング・イブニングライナー	12	8	10	12

※上野～成田間のみ運行

節電への取り組みによる、夏季電力使用量実績(7月1日～9月9日)

対前年同期比で、12～15時: △19.5%、9～12時及び15～20時: △15.1%

鉄道事業の進捗状況(4)

◇当社鉄道事業第2四半期実績(前年同期実績、当初予想との比較)

空港発着輸送人員・旅客運輸収入

(単位:千人、百万円)

	2012年3月期 実績	2011年3月期 実績	増減	増減率	2012年3月期 当初予想	増減	増減率
輸送人員計	6,693	7,493	△ 800	△10.7%	6,353	340	5.4%
旅客運輸収入計	5,581	5,950	△ 369	△6.2%	5,102	479	9.4%

・輸送人員全体に占める空港発着輸送人員の割合は 5.2%(前期比△0.5pt)

・旅客運輸収入全体に占める空港発着旅客運輸収入の割合は 21.8%(前期比△1.0pt)

有料特急輸送人員・料金収入

(単位:千人、百万円)

	2012年3月期 実績	2011年3月期 実績	増減	増減率	2012年3月期 当初予想	増減	増減率
輸送人員計	1,606	2,099	△ 493	△23.5%	1,387	219	15.8%
旅客運輸収入計	1,542	1,714	△ 172	△10.0%	1,344	198	14.7%

※有料特急の数値には空港発着以外の乗降が含まれています。

輸送人員:千人未満を四捨五入して表示しております。

旅客運輸収入:百万円未満を切り捨てて表示しております。

鉄道事業の進捗状況(5)

◇当社鉄道事業 通期予想(前期実績、当初予想との比較)

空港発着輸送人員・旅客運輸収入

(単位:千人、百万円)

	2012年3月期 予想	2011年3月期 実績	増減	増減率	2012年3月期 当初予想	増減	増減率
輸送人員計	13,882	14,434	△ 552	△3.8%	13,374	508	3.8%
旅客運輸収入計	11,798	11,939	△ 141	△1.2%	11,028	770	7.0%

- ・輸送人員全体に占める空港発着輸送人員の割合は 5.4% (前期比△0.2pt)
- ・旅客運輸収入全体に占める空港発着旅客運輸収入の割合は 22.7% (前期比△0.1pt)

有料特急輸送人員・料金収入

(単位:千人、百万円)

	2012年3月期 予想	2011年3月期 実績	増減	増減率	2012年3月期 当初予想	増減	増減率
輸送人員計	3,450	4,033	△ 583	△14.5%	3,142	308	9.8%
旅客運輸収入計	3,290	3,518	△ 228	△6.5%	3,012	278	9.2%

※有料特急の数値には空港発着以外の乗降が含まれています。
輸送人員:千人未満を四捨五入して表示しております。
旅客運輸収入:百万円未満を切り捨てて表示しております。

鉄道事業の進捗状況(6)

◇営業施策の実施

アジアにおけるスカイライナー券の販売開始 (韓国:2010年11月、台湾:2011年3月)

- ・韓国・台湾の大手旅行代理店において、スカイライナー券(乗車券付引換券)を販売開始

スカイライナーチケットレスサービスがスマートフォンに対応 (2011年7月)

- ・携帯電話向けのチケットレスサービスがスマートフォンにも対応開始

スカイマーク、成田国際空港との国内線利用促進 共同キャンペーンの実施 (2011年10月)

- ・スカイマークの国内線「成田シャトル」の成田空港新規就航に伴い
賞品のプレゼントキャンペーンを実施

インバウンド復興キャンペーンの実施 (2011年11月)

- ・「KEISEI SKYLINER&METRO PASS」ほか、キャンペーン対象の
乗車券を購入した訪日外国人旅客にオリジナルグッズを
プレゼント
- ・京浜急行電鉄と共同で実施



“NARITAの国内線がお得”キャンペーン

各種企画乗車券の発売

・「KEISEI SKYLINER & METRO PASS」(2011年4月)

スカイライナーの特急券・乗車券と東京メトロの1日券または2日券がセットになった、訪日外国人向け乗車券。好評につき発売再開

・「下町日和きっぷ」(2011年7月)

京成線の都内エリアが乗り降り自由
エリア内の文化・商業施設で割引利用特典付き



下町日和きっぷ

・「成田開運きっぷ」(2011年10月)

京成線内各駅と成田駅との往復割引乗車券

「2010年度グッドデザイン賞」受賞(2010年9月)

受賞対象: 新型スカイライナー(AE形)

「第9回日本鉄道賞」受賞(2010年10月)

受賞対象: 成田スカイアクセス『JAPAN SPEED 日本の空港アクセスを世界クラスへ』

「2010年日経優秀製品・サービス賞 優秀賞 日経産業新聞賞」受賞(2011年1月)

受賞対象: 新高速鉄道「成田スカイアクセス」

「2011年ブルーリボン賞」受賞(2011年11月)

受賞対象: 新型スカイライナー(AE形)

バス事業の進捗状況(1)

◇東日本大震災の影響

運休・減便

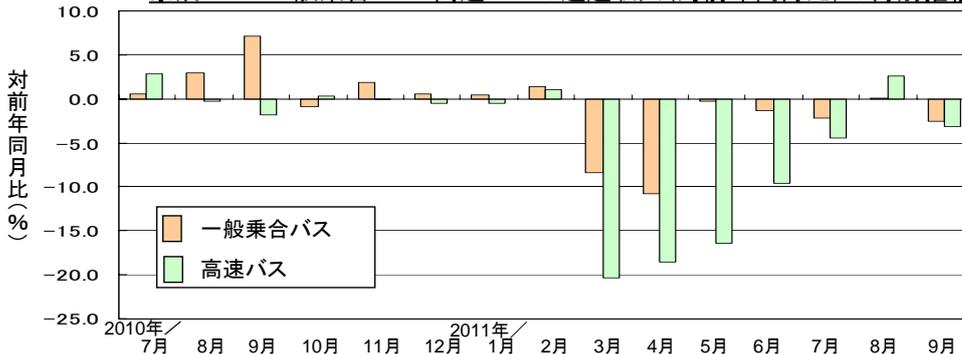
・震災直後の軽油調達困難、東京ディズニーリゾート(TDR)の休園、車庫施設等の一部で液状化による被害が発生

高速バスの各路線で減収

- ・TDR発着路線 : 休園等による入園者数落ち込みの影響
- ・東京駅発着路線 : 東京駅～鹿島神宮線減便による利用客数減の影響
- ・成田空港発着路線 : 成田空港出入国人員減の影響

いずれも
徐々に回復

京成バス 一般乗合バス・高速バスの運送収入(対前年同月比)の月別推移



成田スカイアクセス開業 羽田空港国際線ターミナル開業 東日本大震災発生

◇東日本大震災への対応

高速バス路線の減便・休止

- ・震災に伴い需要が低迷している路線の効率化策として、一部路線(成田空港発着路線等)について減便・休止を実施

緊急支援バスの運行 (3月18日～5月10日)

- ・千葉県内・東京都東部と仙台駅を結ぶルート
54日間で670台計12,938人を輸送

ボランティアバスツアーの企画開催 (5月27日～)

- ・被災地へのボランティアを主体としたツアーバスを運行
宮城県石巻市、南三陸町、七ヶ浜町、岩手県大槌町へ向けた4路線合計で、
9月末までに51台を運行、計1,800名が参加
10月以降も運行継続中

◇高速バス・深夜急行バス路線の拡充

『マイタウン・ダイレクトバス』の拡充

- ・郊外住宅地から直接都心へ乗り入れる通勤路線「マイタウン・ダイレクトバス」
現在4路線を運行中
「早朝通勤割引」、「お出かけ割引」による活性化策を実施(2011年7月～12月予定)

『深夜急行バス』の拡充

- ・「東京駅～葛西・奥戸線」運行開始(2011年4月)
- ・「新橋～成田線」運行開始(2011年7月)
- ・現在6路線を運行中

◇銀聯カードの取扱い開始

- ・成田空港発着の高速バス路線(一部路線を除く)において、成田空港カウンターでの銀聯カードの取扱いを開始(2011年7月)

◇楽天トラベルでの予約販売取扱い開始

- ・高速バス2路線等において、楽天トラベルでのインターネット予約販売を開始
(2011年8月～)

◇コミュニティバスの拡充

墨田区区内循環バスの運行事業者に決定

- ・東京スカイツリーを拠点として3路線を運行(2012年春運行開始予定)

◇「特定地域タクシー事業適正化・活性化特別措置法(※)」に基づく減車の実施

- ・当社グループでは、6月までに連結子会社で累計186台(△15.6%、1,195台→1,009台)の減車を実施

(※) タクシーの供給過剰により、「地域公共交通としての機能を十分に発揮できていない」とされた地域(特定地域)において、タクシーを適正な台数へ減らすよう定めたもの。

◇電気自動車(EV)タクシーの導入

- ・帝都自動車交通(株)

EVタクシー2両を導入(2011年9月)、新丸ビル前のエコタクシー乗り場にも乗り入れ開始(2011年10月)



電気自動車(EV)タクシー

◇東日本大震災の影響及び対応

- ・百貨店業では、震災直後、休業、買い控えにより売上減
「エコ」「節電ビズ」関連商品の強化やイベントを実施し、前年並みまで回復
- ・ストア業では、震災直後、商品の確保に努め、生活必需品の特需により売上増
その後は特需の反動、消費自粛ムード等により厳しい状況で推移したものの、粗利率は改善

◇リブレ京成店舗 リニューアルの実施

- ・買い物をしやすいお客様導線の構築、見やすく選びやすい売場の創出と商品提供を
コンセプトにレイアウトを変更し、内装・外装を一新
(LaLaテラス南千住店:2011年9月、高根台店:2011年10月)

◇コンビニエンスストアにおけるブランド転換効果

- ・コミュニティ京成が運営する「ファミリーマート」店舗において、ブランド転換効果や運営店舗の増加等により、
本年4~9月の売上は、対前年同期比28.8%増



リブレ京成 LaLaテラス南千住店 14

◇グループ資産の有効活用

- ・市街地にあるバス・タクシー営業所等を郊外へ移転し、跡地を有効活用
周辺環境に応じて、賃貸開発、住宅開発を計画・実施

◇賃貸開発 : 安定的収益源となる賃貸資産の拡充

2011年度

- ・有料老人ホーム 【千葉市中央区】(2011年5月稼働)
- ・賃貸型居宅介護施設 【成田市公津の杜】(2011年11月稼働)
- ・ビジネスホテル 【台東区浅草】(2012年3月稼働予定)
- ・賃貸型通所介護施設 【船橋市宮本】(2012年3月稼働予定)

2012年度

- ・賃貸型保育施設 【鎌ヶ谷市初富】(2012年4月稼働予定)
- ・駅前賃貸住宅 【船橋市本町】(2013年1月稼働予定)

◇住宅開発 : 沿線活性化に寄与するマンションの分譲

販売総戸数

- ・サングランデ印西牧の原ドアシティ 400戸 【印西市原】(2010年8月(D棟)~2012年8月(A棟)竣工予定)
- ・サングランデ亀有親水公園 41戸 【葛飾区亀有】(2012年2月竣工予定)
- ・サングランデ公津の杜 グレイス 206戸 【成田市公津の杜】(2013年3月竣工予定)

当社グループの事業環境(1)

◇東京スカイツリー及び周辺施設の開業

- ・2012年5月、当社線押上駅隣接地に東京スカイツリー及び周辺施設が開業予定
年間2,500万人の来場を予想(東武鉄道発表)
- ・当社線における輸送人員増のほか、コミュニティバスの運行受託等により、
バス事業・タクシー事業における利用者増を期待

◇押上本社跡地の活用

- ・当社の本社は、2013年、千葉縣市川市へ移転予定
- ・本社ビル跡地については、都市計画や東京スカイツリー周辺施設との整合を図りつつ、
移転後の有効活用を検討中

◇LCC(格安航空会社)の成田空港参入

- ・ジェットスター航空(オーストラリア、2008年12月)に加え、エアプサン(韓国、2011年6月)、イースター航空(韓国、2011年7月)の計3社が成田空港に就航
- ・日本の航空会社が海外の航空会社等と共同出資するLCCを設立(2011年8、9月)
成田空港を拠点として就航予定(2012年度)
ANA出資「エアアジア・ジャパン」
JAL出資「ジェットスター・ジャパン」

◇成田空港発着国内線の充実

- ・スカイマークが、成田空港発着の国内線「成田シャトル」運行開始(2011年10月)
2011年度 : 旭川・札幌(新千歳)・那覇・福岡の計4都市に就航予定
2014年度まで : 上記の他、6都市への就航を計画中

成田空港発着枠の拡大見通し

2011年10月	22万回	→	23.5万回	(現行)
2011年度中	23.5万回	→	25万回	(+1.5万回)
2012年度中	25万回	→	27万回	(+2万回)
2014年度中(最速)	27万回	→	30万回	(+3万回)

本資料の情報のうち、過去の事実以外のものは将来の見通しであり、リスクや不確実性を含んだものです。
実際には、様々な要因により異なる結果となる場合があることをご承知おきください。